

春 告 草

第 128 号 平成 31 年 1 月 16 日 進路指導部発行

センター試験直前

センター試験まであと 3 日である。6 年生は今日で平常授業が終了し、センター試験後は私立大、国公立大の個別試験へ向けての特別指導期間となる。長かった受験勉強のゴールが見えてきたが、もうひと頑張り进行期待したい。後輩の皆さんは、先輩達が実力を発揮して志望校合格を果たすことを祈ろう。

センター現役志願率は過去 2 番目の高水準も、国公立大出願数は減少の傾向

平成31年度大学入試センター試験志願者数

区分	志願者数	比率	対前年度増減
高等学校等卒業見込者	(473,570) 464,949 人	(81.3) 80.6%	△8,621 人 △1.8%
既卒生他	(109,101) 111,880 人	(18.7) 19.4%	2,779 人
合 計	(582,671) 576,829 人	(100.0) 100.0%	△5,842 人 △1.0%

2019年度のセンター試験志願者は、今年度より1.0%減少した。このうち高等学校等卒業見込者は46.5万人で、卒業見込数に対する志願者数の割合、すなわち現役志願率は44.0%である。過去最高となった今年度と比べて0.6ポイント下がったが、過去 2 番目に高い志願率である。

昨年は、高等学校新規卒業見込み者が一昨年よりも減少した中で志願者数、現役志願率ともに上昇した。しかし、国公立大個別試験の出願は、1.1%減少（国立大1.8%減、公立大0.6%増）した。センター試験の5教科7科目の平均点は前年と大きな差はなく、国公立大への出願者は増えるのではないかと見られていたが、結果としては7年連続の減少となった。現役志願率が高水準となっても、国公立大の一次試験としてではなく、私立大のセンター利用入試を目的出願する受験生が増えているためだ。

今回で30年目となるセンター試験は、来年で終わり、2年後には新テスト「大学入学共通テスト」に切り替わる。今年度のセンター試験では、新テストへの移行を意識し、思考のプロセスや言語活動の充実などを問う出題が見られた。新テストの「試行調査」が行われるなど、具体像が明らかになりつつあることから、今回のセンター試験も多少の影響を受けるだろう。また、センター試験が平均点を6割に設定しているのに対し、新テストでは5割の設定としている。そのため、今回のセンター試験ではやや難易度が上がり、平均点が下がるのではないかとこの見方もある。

国公立大個別試験への出願は、センター試験の平均点の影響を受けやすい。前年の結果と比べて、平均点が上がると受験生は「強気」になり、下がると「弱気」になって志望校のレベルを下げる受験生が増える。同じ大学を受験するにしても、学部を変え、より安全な志望に変えることも多い。受験生の心理に安全志向が働くためだ。

国公立大一般入試では、後期日程試験廃止が相次ぎ、難関国立大は1校受験に近づいている。今年の国公立大志願者は前年並みと予測されるが、模試の志望動向を見ると難関国立大の志願者は増えていて、強気な志望が目立つ。センター試験の結果次第で国公立大入試は大きく動きそうだが、安易に志望校を変えたりしない方がよいのではないかと。今まで志望してきたこともあり、そのうえでの「入りたい大学・学部選び」こそ最も大切だからだ。

大学入試ガイド(2)

国公立大学に入るには

連載 2 回目は国公立大学入試のシステムについて解説します。

1990年から始まったセンター試験も30年目を迎えた。2021年度入試からは新テスト「大学入学共通テスト」が実施されるが、国公立大に入るためには試験を二度受験しなければならない。すなわち、センター試験（共通テスト）と各大学で行う「個別試験」である。センター試験は今週末に行われ、個別試験への出願も今月下旬から始まる。

今年度の入試では国公立合わせて46. 6万人の志願者があった。本校生徒も多く受験する国公立大受験について学習しよう。

平成30年度国公立大入試志願状況

区 分	募集人員	志願者数	志願倍率
国立大	(79,444) 78,998	(336,118) 330,205	(4.2) 4.2
公立大	(20,928) 21,549	(134,668) 135,503	(6.4) 6.3
合 計	(100,372) 100,547	(470,786) 465,708	(4.7) 4.6

上段（ ）内は昨年度の状況

国公立大学入学のルートは3つ

何といても一般試験（一般選抜…現4年生受験年度より名称変更、以下同じ）が基本だが、AO入試（総合型選抜）や推薦入試（学校推薦型選抜）も難関国立大で行われるようになった。東京大学の推薦入試、京都大学の特色入試は4年目を迎えたが、大阪大学の世界適塾入試、お茶の水女子大の新フンボルト入試に引き続き一橋大も今年度から推薦入試を全学部に拡大して実施された。本校からは、東大、京大、お茶大にそれぞれ合格者が出ている。東北大学でもAO入試で全入学者の3割を確保したいとの方針を以前より打ち出している。AO入試（総合型選抜）、推薦入試（学校推薦型選抜）は今や「特別な入試」ではなく、入学手段の一方法と認識しなければいけない時代である。これについては、別号で解説したいと思います。

一般入試の1stステップ 大学入試センター試験（大学入学共通テスト）受験

●日程など

大まかなスケジュールは右表で確認しておこう。現役生は、出願から受験票交付まですべてを在籍校経由で行う。本試験は1月13日以降最初の土日と規定されているので昨年は最早の試験実施となった。今年は約1週間遅れの日程だが、1月下旬から始まる私大入試までの期間が短く、センター対策と国公立大個別試験対策を並行して行わねばならない状況だ。来年の実施日は1月18日、19日である。

●受験科目など

（現行のセンター試験を基に解説する。新テストに関して大きな変更はないと思われるが、詳細が判明次第、解説する。）

センター試験の受験教科と科目数は出願時に登録する。試験当日にこれを変更することはできないので、9月末の出願時にはどの教科をどの科目で受験するかを決めておかなければならない。特に理科は科目選択方法が複雑であるので、受験する大学がどのように科目指定しているのかを調べておかなければならない。

理科は基礎を付した科目（物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎）を①グループ、基礎を付していない科目（物理、化学、生物、地学）を②グループとし、A～Dの4つの選択肢から1つを選んで出願時に登録する。基礎科目は2科目受験が必須で2科目合わせた解答時間は60分である。この2科目の解答の順序、時間配分は自由である。AからDのどれで受験するかを決めるためには、出願時までに志望校をある程度決定し、理科の科目選択方法をチェックしておかなければならない。（裏面へ続く）

センター試験の日程(平成31年度入試)

平成30年	
9月上旬～	受験案内配付
9月3日～10月12日	検定料など払込み
10月1日～10月12日	出願期間
10月末頃までに到着	確認はがき受領
12月中旬までに到着	受験票などの受領
平成31年	
1月19日(土)20日(日)	本試験実施正解などの公表
1月23日(水)頃予定	平均点などの中間発表
1月25日(金)予定	得点調整実施有無の発表
1月26日(土)27日(日)	追(再)試験実施
2月7日予定	平均点などの最終発表
4月16日以降	成績通知書の受領

なお、選択方法Cで受験できる大学では、同一名称を含む科目の組み合わせ(「物理基礎」と「物理」など)の可否が定められている場合がある。各大学のセンター試験「理科」の科目指定を見ると、国公立大の文系学部はAまたはB、理系学部はDを利用するところが多い。私立大センター利用入試では、文系学部はA～Dのいずれでも受験可能なところが多く、理系学部はBが多い。

現行のセンター試験はすべてマーク式で、試験時間は国語と英語が各80分、それ以外の科目は60分である。

新テストに関しては、国語と数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学Aの一部が記述式になり、2024年度以降には地歴・公民、理科にも拡大実施されることが検討されている。試験時間についても、記述式テストが導入される国語で80分→100分、数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学Aで60分→70分と試験時間の拡大が検討されている。

一般入試の2ndステップ 個別試験受験

●選抜要項と募集要項は必読

国公立大は、一般入試、AO入試など各入試の募集人員や入試日程、科目、配点などを「入学者選抜要項」に掲載して、7月末までに発表する。受験に必要な情報が網羅されており、前年度からの変更点なども載せているので必ず各大学のホームページなどをチェックしよう。

また「募集要項」は11月末から12月中旬にかけて公開される。これには募集人員、入試日程・科目・配点などはもちろん、受験の際の注意点も詳しく書かれており、出願に必要な書類も含まれている。そのため、志望大学の募集要項は必ず早めに入手(※)しよう。

※ 入試出願をインターネット経由で行うweb出願が私大を中心に増加し、募集要項は各大学のホームページからダウンロードすることになった。従来の紙媒体の募集要項を廃止する大学も多い。国公立大もweb出願に切り替える大学が増え、東京外国語大学や首都大学東京などでも実施している。来年度入試に関しては従来の「紙の願書」を使う大学もあるが、web出願への切り替えは数年のうちにさらに進むだろう。各家庭でのPC環境の整備も必要である。

●個別試験は前期日程試験と後期日程試験のダブルチャンス

国公立大一般入試は原則として、個別試験の定員を前期日程と後期日程に分けて募集する「分離分割方式」で実施される。一部公立大は、これとは別に中期日程や別日程で行うので、受験のチャンスは複数回ある。ただし、前期で合格して入学手続きを終えると、後期(中期、別日程も含む)の受験資格を失うと決められている。推薦入試の新規実施などで後期試験を廃止した大学も多く、このため後期試験の志願倍率は高くなるが、上に述べた理由から後期試験を欠席する受験生も多く、受験倍率は意外と低い場合もある。国公立大入学を目指すのであれば、後期日程受験までを視野に入れた受験計画を立てなければいけない。

●個別試験科目の傾向について

個別試験の科目の傾向をざっと見ると、英語は「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・Ⅱ」が中心。「英語会話」を課す大学は少ないが、難関大の外国語学部や国際関連の学部などで課される場合もある。

国語は「国語総合のみ」または「国語総合、現代文B、古典B」を課す大学が多い。

地歴は日本史・世界史・地理の各B科目が主体である。

理科では、「基礎・発展」1科目が多く、「基礎・発展」2科目は難関大や医学科で多くみられる。

数学は、文系では数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bが多く、理系では数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bに加えて数学Ⅲを課するところが多い。

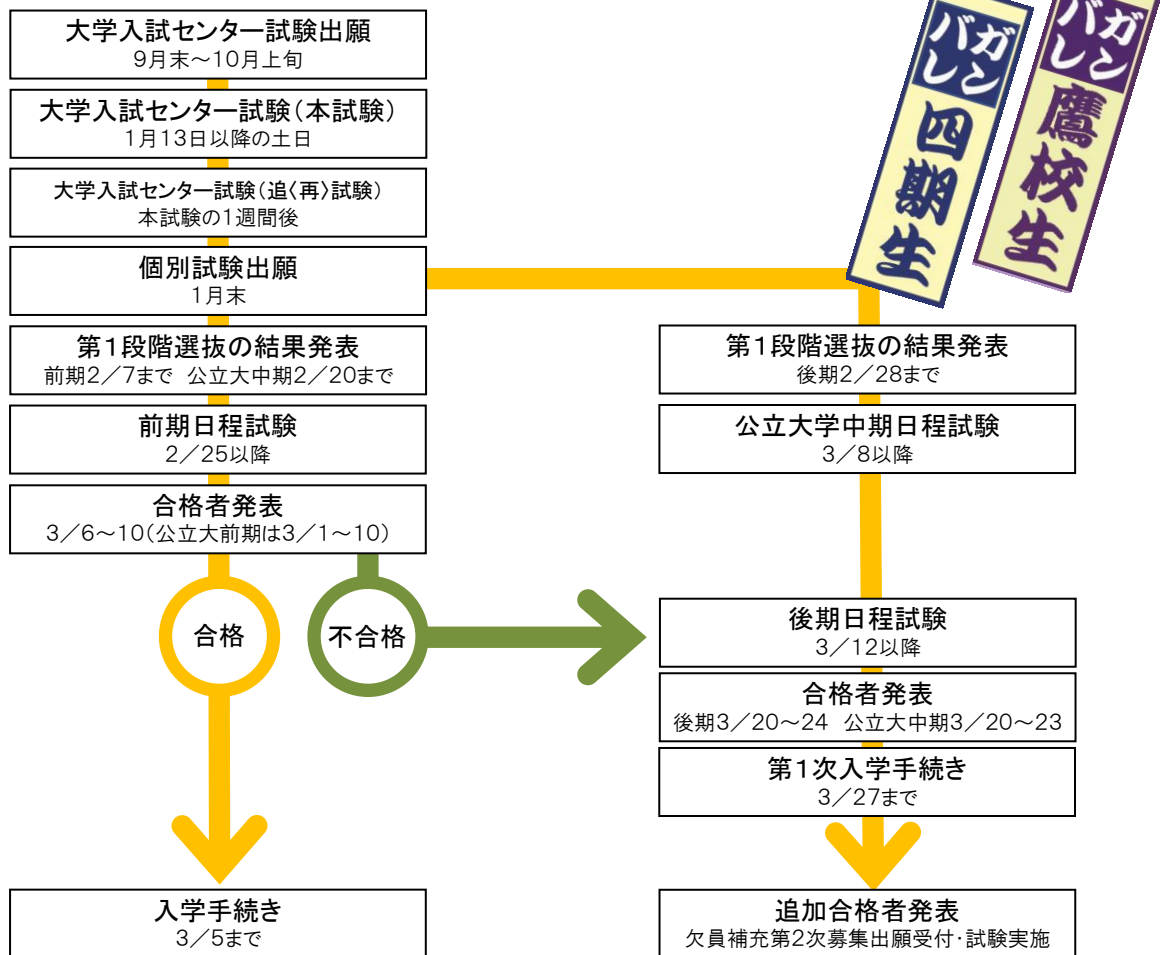
理科の科目選択

A	理科①から2科目
B	理科②から1科目
C	理科①から2科目＋理科②から1科目
D	理科②から2科目

大学入試センター試験時間割

	時 間	科 目
第 一 日	9:30~10:30	地歴・公民
	10:40~11:40	地歴・公民
	13:00~14:20	国語
	15:10~16:30	外国語
	17:10~18:10	英語リスニング
第 二 日	9:30~10:30	理科①
	11:20~12:20	数学①
	13:40~14:40	数学②
	15:30~16:30	理科②
	16:40~17:40	理科②

●国公立大一般入試のスケジュール



●2018年度入試合格者成績

合否判定はセンター試験と個別試験の成績を合わせて行われるが、これらの配点比は各大学で定めている。また、センター試験の得点で選抜(足切り)を実施する大学もあるので、志望大学の要項を調べておくとうい。今年度入試の結果の一部を紹介するが、いずれも各大学のホームページなどで公開されている内容である。不足している情報は、各自で調べてください。※表中(後)は後期試験の結果で、表示のないものは前期の結果である。

東京大学

科類	最低点	平均点	満点
文一	354.9778	381.0984	550
文二	350.6333	373.0185	550
文三	343.5778	364.0315	550
理一	319.1889	351.7954	550
理二	310.9667	336.2429	550
理三	392.3444	418.3943	550

東京工業大学

類	最低点	平均点	満点
第1類	419		750
第2類	423		750
第3類	432		750
第4類	441		750
第5類	444		750
第6類	426		750
第7類	413		750
第7類(後)	354.80		450

※東工大前期でセンター得点は出願条件(600点以上/950点)として利用し、個別試験得点のみで合否判定を行う。

一橋大学

学部学科	最低点	平均点	満点
商	597		1000
経済	582		1000
法	603		1000
社会	608		1000
経済(後)	535		1000

首都大学東京

学部学科	最低点	平均点	満点
人文社会-人間社会	862.60	894.14	1200
法	738.80	773.38	1000
経済経営-一般区分	604.75	627.28	900
理-生命科学	792.30	834.79	1250
都市環境-建築	751.20	778.91	1000
システムデザイン-インダストリアルアート	698.30	745.35	1000
健康福祉-看護	536.50	579.97	750
人文社会-人文(後)	846.80	865.48	1100
経済経営(後)	974.30	989.94	1250